

教科別研修講座報告

C441 中学校美術科・高等学校芸術科美術研修講座
「育成を目指す資質・能力を明確にした授業デザイン」

【平成 30 年 7 月 6 日（金） 発展編】

講師 東京藝術大学 教授 荒井 経 氏



〈内容の詳細〉

- 1 東京藝術大学保存修復日本画での教育、日本の伝統や感性を生かした美術教育について（講義）
 - ・日本の伝統的絵画と日本画の成立、絵の具の変遷
 - ・保存修復の研究と大学院における教育現場の現在
- 2 日本美術の伝統を生かした実践（講義・演習）
 - ・生紙に水干絵の具によるにじみを生かした下地づくり(荒井先生の実演あり)
 - ・画面にドーサ引き
 - ・水干絵具・岩絵具・模造金泥などで上描き
- 3 越前和紙を用いた日本画の実践（実習）
 - ・「合評会」受講者同士による発表と鑑賞
 - ・荒井先生からの御講評と質疑応答



〈受講者の声〉

- ・専門的な知識と技術を持っていらっしゃる先生のお話は、すべてが興味深かったです。
- ・説明が丁寧で、とても分かりやすかったです。午後の韓国画、中国画のお話も大変興味深かったです。
- ・先生の制作の中から、日本画のとらえ方や表現についてリアルタイムに感じられました。
- ・にじみを生かした方法は、授業で活用できそうなので、とても参考になりました。
- ・生き様が格好良くて、感動しました。刺激になりました。常に追求し続ける人生が素晴らしいです。

【平成 30 年 8 月 1 日（水） 基礎編】

講師 教育総合研究所 教職研修センター 所員 伊藤 裕貴

〈内容の詳細〉

- 1 中高での美術教育で育成する資質・能力と授業づくりの在り方（講義）
 - ・造形ユニット開発の系譜と授業づくりおよび美術科教員の資質・能力向上との関連
 - ・新しい学習指導要領と最新版の造形ユニットおよびこれからの方向性
- 2 授業改善の視点、授業づくりのポイント（演習）
 - ・小学校、中学校、高等学校用の造形ユニットを閲覧し、異校種の題材についてユニットから学び、グループ活動で共有
 - ・新旧ユニットの違いを実際に見て読むことで、ねらいの変遷を理解
- 3 授業改善につながる題材づくり（演習・実習）
 - ・午前中の演習で気になったユニットについて、自校での新たな題材とするための授業デザインシートを作成
 - ・育成を目指す資質・能力の三本の柱を意識しながら、指導ユニットを作成し、個人発表



〈受講者の声〉

- ・夏休み明けの授業から早速生かすことのできる内容ばかりでした。
 - ・新学習指導要領の要点について、より意識することができました。
- 3観点は、改めて勉強する必要があると感じました。
- ・様々な校種が混じったグループでの話し合いはとても参考になりました。他校種のユニットを見せてもらったことで、授業のヒントがたくさん得られました。
 - ・「造形的見方」をキーワードに深い学びを探っていくことは、すぐに授業に取り入れられそうです。
 - ・校内での研究授業に、学習指導案と併せて造形ユニットの授業デザインシートを添付するなどの活用をしたいと思います。

